

「リスクに関する科学コミュニケーションの ネットワーク形成支援」プログラム 実施状況

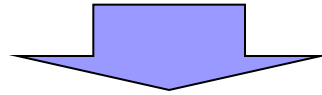
～ 科学技術コミュニケーション推進事業 ～

平成25年3月

科学技術振興機構(JST)
科学コミュニケーションセンター
連携推進担当

【本プログラム開始の経緯と趣旨】

- ・東日本大震災以降、リスクコミュニケーションの在り方や、自然災害などのリスクへの関心が高まる。
- ・リスクに関する知識の普及を進めることが重要。



- ・科学技術コミュニケーション活動の担い手である、日本全国の大学や科学館等の活動主体がネットワークを形成し、連携しながら、リスクに関するコミュニケーション活動の普及・展開、活動手法の開発・共有を図る取組を支援。
- ・これにより、国民のリスクに対する多角的な理解の促進、リスクに関するコミュニケーション活動の個々の質の向上、ならびに効果的かつ効率的な新たな科学技術コミュニケーション活動の創出が期待。

【平成24年度採択プロジェクト①】

市民参加型で暮らしの中からリスクを問い学ぶ場作りプロジェクト

提案機関：北海道大学

連携機関：

帯広畜産大学、福島大学、京都大学、大阪大学、NPO法人北海道こんぶ研究会、
おこっぺ
興部市民車座討論会事務局、一般社団法人札幌消費者協会(食と健康を考える会)、
コープさっぽろ

概要：

市民参加型の熟議場という対話ツールを用いて、従来の科学技術コミュニケーションの対象には入ってこなかった人々を巻き込みながら、**食と農を中心としたリスクに関するコミュニケーションの実践**を行い、地域内・国内のさまざまな実践者と連携しながら、ネットワークを構築。

【平成24年度採択プロジェクト①】

※前身にあたるJST/RISTEX研究開発プロジェクト「アクターの協働による双方向的リスクコミュニケーションのモデル化研究」(通称RIRiC(リック))を基盤にして、「RIRiC2」として展開。



◎対話小フォーラムの実践

【BSE問題等対話】

- ・食の安全セミナー「BSEからE型肝炎まで」への協力(主催:札幌消費者協会)
- ・BSE熟議場in帯広<ステーキホルダー会議> 3回開催

【オホーツク圏と消費地対話】(主催:一般社団法人オホーツクテロワール)

- ・「オホーツク・テロワール シンポジウム2013 in 紋別」への協力

【福島と札幌を結ぶ対話】

「モモをめぐる語り合い」、函館版「ふくしまSTYLEを知ろう」、語り場「ふくしまを知ろう・語ろう」

【海の森作り対話】

海の森作りネットワーク勉強会、円卓会議～海の森を陸と海から眺める～

【平成24年度採択プロジェクト②】

放射線安全確保に資するコミュニケーション技術開発 と専門家ネットワーク構築

提案機関：京都大学

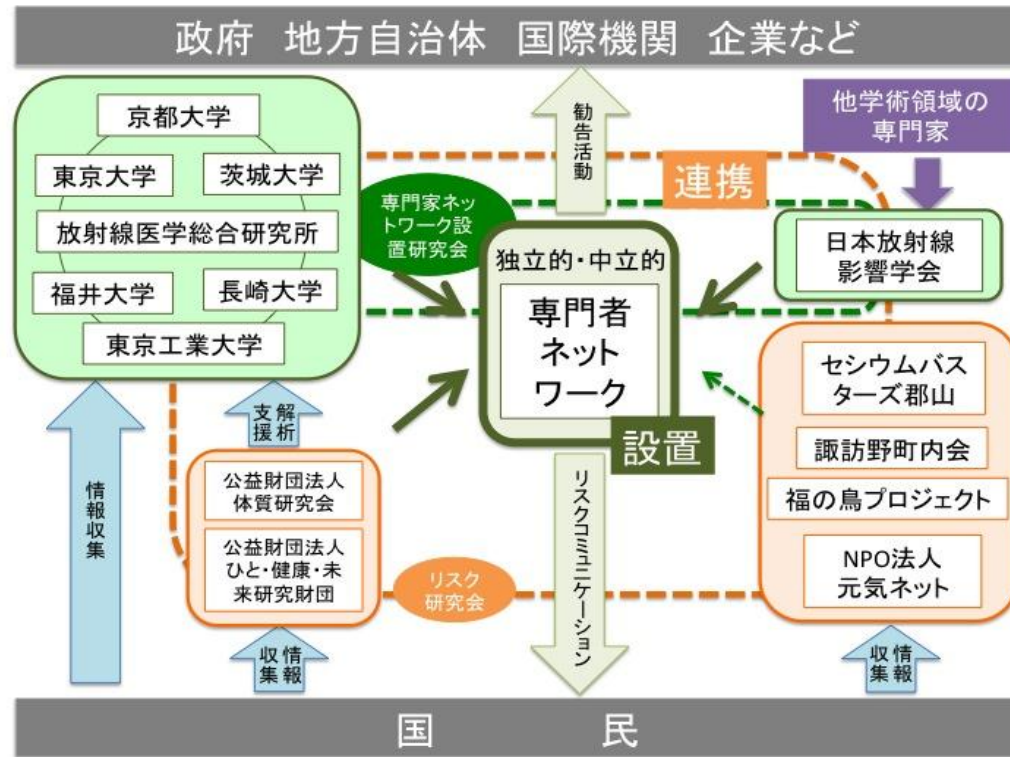
連携機関：

茨城大学、東京工業大学、福井大学、長崎大学、高エネルギー加速器研究機構、放射線医学総合研究所、(公財)体質研究会、(公財)ひと・健康・未来研究財団、NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット、福島県伊達市諏訪野町内会、セシウムバスターズ郡山、福の鳥プロジェクト、日本放射線影響学会

概要：

「放射線の健康影響」に関する科学技術コミュニケーションの実態を、一般人および専門家の立場から調査・解析し、得られた結果に基づいて、リスク事象を乗り越えるために必要なリスクコミュニケーション技術の開発を行うとともに、そのスキルを最大限に発揮できるネットワークを構築。

【平成24年度採択プロジェクト②】



◎放射線影響解説セミナー(講演及び意見聴取)

福島県、山形県、東京都で23回開催(支援開始以前にも多数開催)

◎ワークショップ「低線量(率)被ばくの生体影響を考える」平成24年10月 郡山市

◎パネル討論会「福島から学んだリスクコミュニケーション」(サイエンスアゴラ)

◎市民公開講演会「食卓が家族を救う」平成25年1月 品川